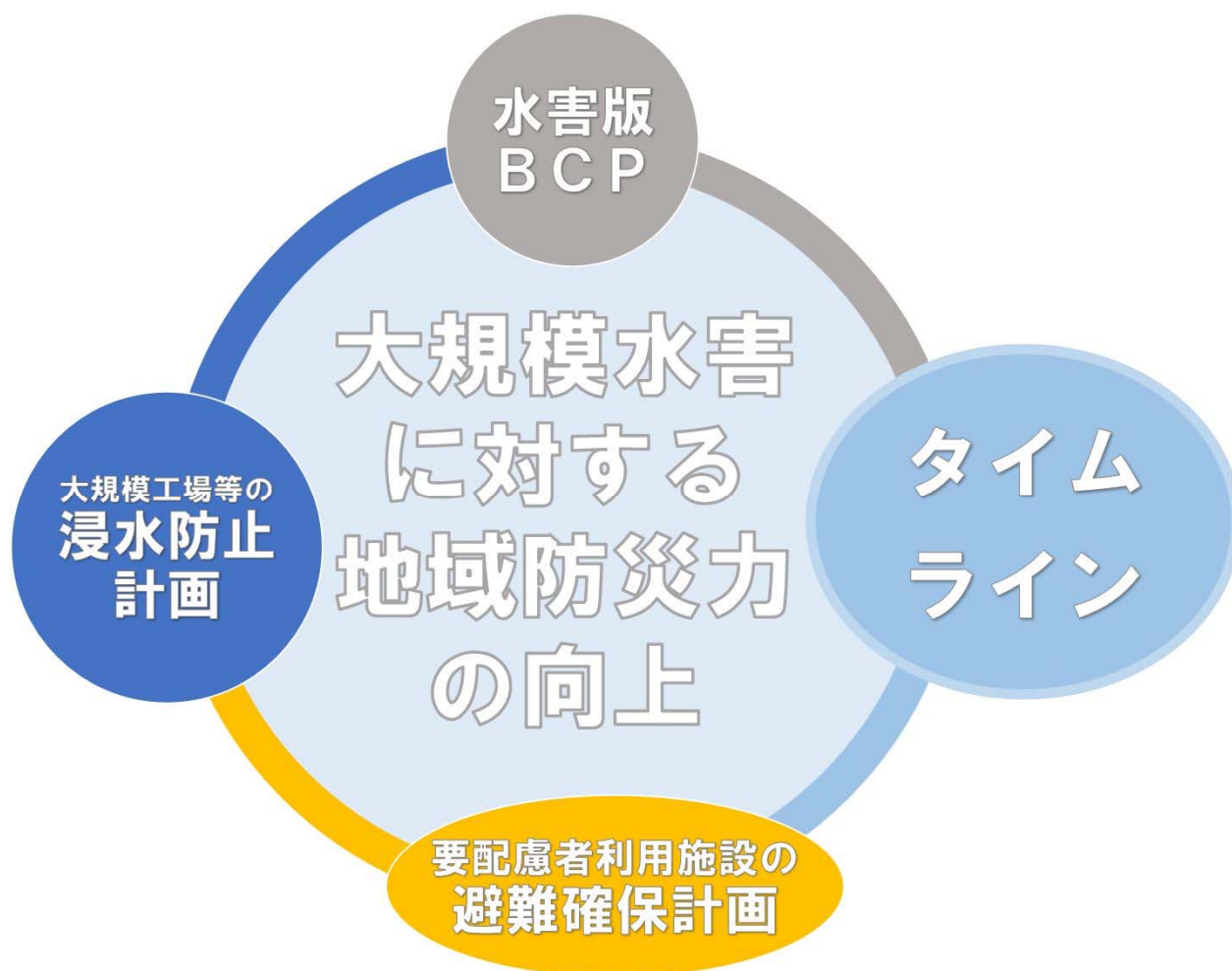
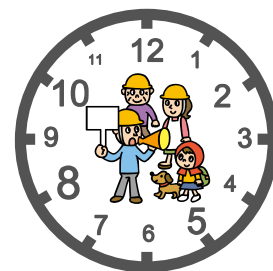


自治体向け タイムライン 作成手引き



作成の過程が大切！！



平成28年 3 月

国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所

はじめに

○タイムラインの必要性

近年、気候変動等の影響により、記録的豪雨や台風の大型化など、大規模な水害のリスクが全国的に高まっています。

広大な佐賀平野は、低平地で海拔が低く、洪水・高潮による氾濫が生じると広域的かつ長時間にわたる浸水が続く可能性があります。

今後、大規模水害が発生することを前提として、平常時から自治体や防災関係機関等が、「共通の被災シナリオ」、「共通の時間軸」で防災行動について協議を行い、防災行動計画(タイムライン)を作り上げることが極めて重要です。



武雄市朝日町高橋地区浸水状況
(平成21年7月)



長崎自動車道 武雄I.C.付近浸水状況
(平成2年7月)

○タイムラインとは？

タイムラインとは、主に防災に関わる組織が連携し、事前調整を図り、災害に対してそれぞれの役割や対応行動を定めたリスクコミュニケーションツールです。

タイムラインが有効に機能するためには、タイムライン作成の過程で、各機関が具体的な議論を行うことが大切です。

タイムラインは、次の3つの要素で構成されています。

いつ (タイミング)	防災行動を実施する時間帯
何を (防災行動)	防災行動内容(あらかじめ調整し決める)
誰が (機関または組織)	防災機関や組織または個人

○タイムラインの効果

タイムライン作成により、災害対応力の向上が期待されます。

タイムラインの効果

① 庁内、各機関間との関係性の構築



② 防災行動の共通認識



③ 防災行動の手順、主体の明確化



災害対応力の向上



米国ハリケーン・サンディ襲来時におけるタイムラインの効果

- ・平成24年10月末、米国で発生したハリケーン・サンディによる高潮災害は先進国の大都市に壊滅的な被害をもたらした初めての大規模災害でした。
- ・甚大な被害を受けた、ニュージャージー州では上陸の36時間前に州知事から住民に対し避難を呼びかけました。バリヤーアイランドは約4,000 棟が高潮被害を受けましたが、あらかじめ州政府と調整し、町や地区とも早い段階で調整できていたこともあって、人的被害ゼロの円滑な避難が実現できました。
- ・また、ニューヨーク地下鉄はハリケーン・サンディ上陸1日前に、乗客に事前通知予告した上で地下鉄の運行を停止し、浸水による被害は生じたものの、最短2日で一部区間の運行を再開させました。

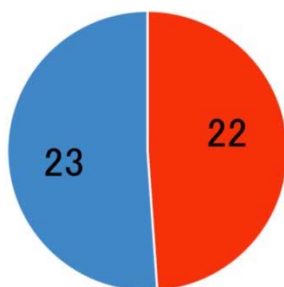


関東・東北豪雨におけるタイムラインの効果

- ・平成27年9月関東・東北豪雨災害で氾濫危険情報が発表された市町村のうち、「避難勧告の発令等に着目したタイムライン」を策定した市町村における、避難勧告または避難指示を発令した市町村の割合は72%、未策定市町村は33%となっており、タイムライン策定済みの自治体の方が発令率が高くなりました。

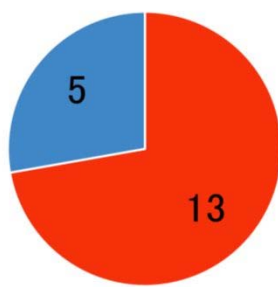
国管理河川(合計)

発令率:49%



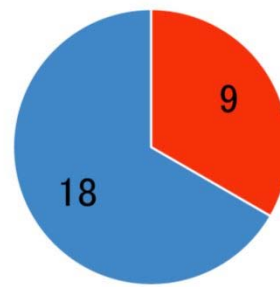
国管理河川(TL策定済み)

発令率:72%



国管理河川(TL未策定)

発令率:33%



■: 避難勧告等発令市町村数 ■: 避難勧告等未発令市町村数

手引きの使い方

○対象とする使用者

市町村等の基礎的自治体での使用を想定しています。

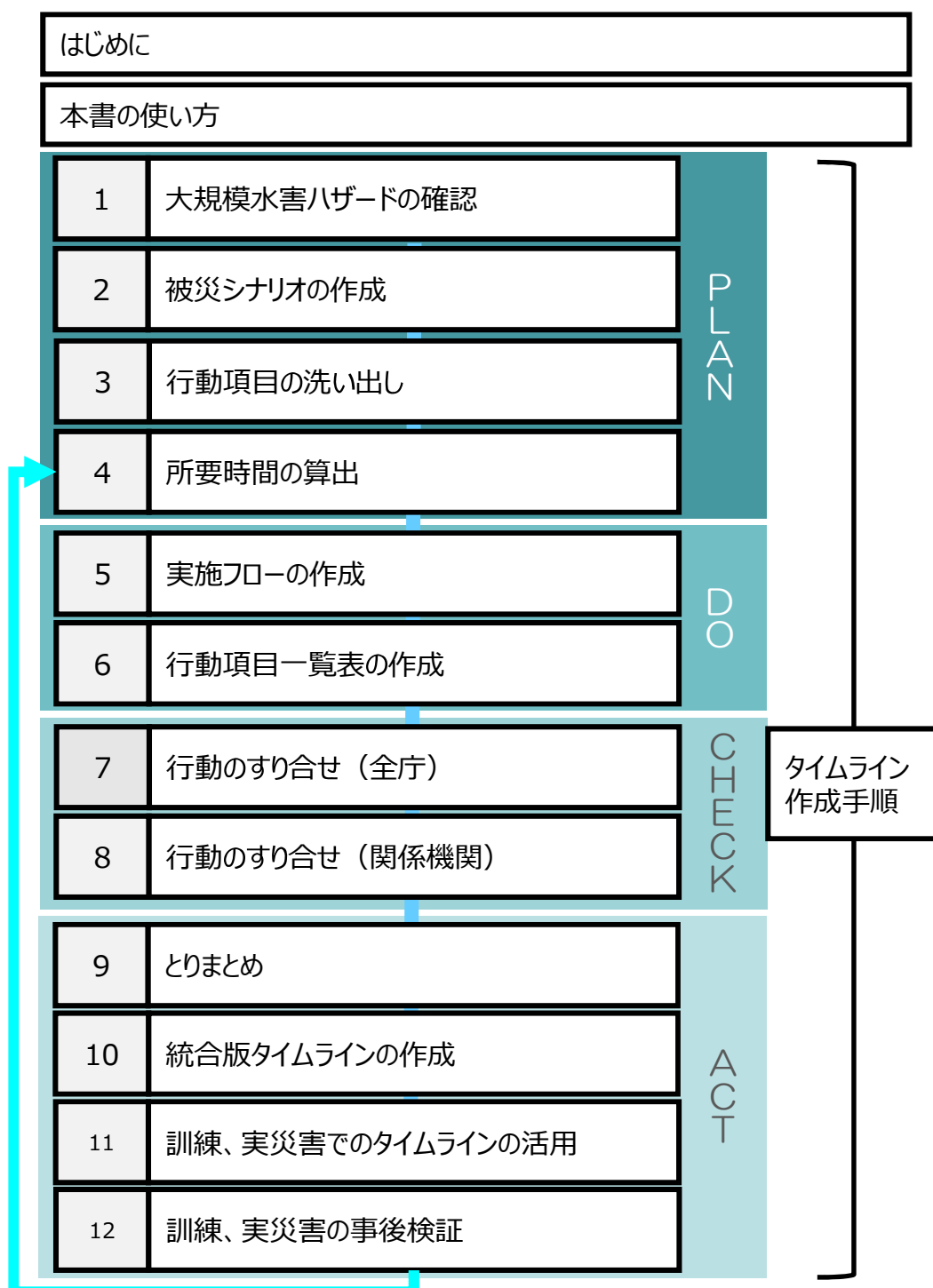
モデル地区（小城市、白石町、唐津市）の作成事例を参考に、タイムライン作成の手順を解説していきます。

○対象とする災害

洪水、土砂災害、高潮災害を対象とします。

○本手引きの構成

本手引きは、以下のような構成となっています。



○タイムライン作成手引きの使い方

タイムライン作成手順(5頁以降)は、次の構成で記載されています。

- ①ここでの手順の「ポイント」や、「目的」を記載しています。
- ②ステップを追って具体的な作成手順を記載しています。
- ③ここでの作業に必要となる情報等の技術的支援について記載しています。
- ④実際の事例など参考となる情報を記載しています。

番号. タイトル

○この作成段階での、目的やポイントを記載しています。 ①

■STEP1
作成手順を記載しています。
.....
.....

■STEP2
作成手順を記載しています。
.....
.....
.....
.....
.....

■STEP1
作成手順を記載しています。
.....
.....

武雄河川事務所の技術的支援

武雄河川事務所の技術的支援について記載しています。
.....
.....

③ 図、写真

 **トピック**

モデル、区小城市職員の声や、参考になる情報等をトピック的に記載しています。

トピックのマークは2種類あります。

④ 図、写真

1

この段階における重要性やポイントを確認するときにご覧ください。

具体的な作成手順を確認するときにご確認ください。

武雄河川事務所では相談窓口(災害情報普及支援室)を設置し、河川情報(雨量・水位等)等、自治体の災害対応に役立つ情報の提供をしております。自治体が作成するタイムラインにおいても技術的支援を致します。

参考となるモデル地区職員の声や、補足情報を記載しております。参考としてご覧ください。



モデル地区での事例や、参考となる補足情報が記載されています。

モデル地区や参加機関のタイムライン作成過程での体験談や、感想が記載されています。

タイムライン作成手順

1. 大規模水害ハザードの確認

○タイムラインを作成する関係者の理解や意識を向上させるため、大規模水害時のハザードを確認し、想定される事態を共有します。

■STEP1

佐賀平野内であっても、地域の立地や特性によって、大規模水害ハザードの種類や被害が発生しやすい地域、災害の特徴が異なります。対象地域に想定される災害ハザードの情報を集めて、特徴を把握しましょう。

※武雄河川事務所は、佐賀平野の浸水深、浸水到達時間、浸水継続時間の情報を提供します。

浸水ハザードの種類と特徴

災害ハザードの種類	被害が発生しやすい地域	災害の特徴
河川の洪水氾濫	河川の沿川の地域	雨が降り始めてから河川水位が上昇し、氾濫・決壊するまでに時間的な余裕がある。 決壊口付近では、数メートルの浸水被害や建物が流されるような強い流れが発生する危険がある。
土砂災害	傾斜が急な山や崖のある地域	長時間降り続く雨や、急な大雨により地中にしみ込んだ水の量によって発生数や規模が増し、被害発生までの時間的余裕が少ない。
高潮	沿岸で標高の低い地域	低気圧や風の吹き上げによって発生するため、被害発生までに時間的な余裕がある。 海拔より標高の低い地域では被害が激化・長期化する恐れがある。

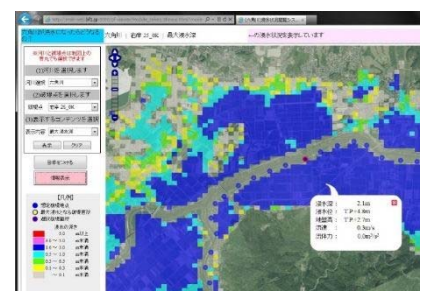
■STEP2

集めた災害ハザード情報から対象地域で想定される被害を把握しましょう。
これを元に次のステップからシナリオを作成していきます。

武雄河川事務所の技術的支援①

六角川・松浦川浸水情報提供システム

タイムライン作成に必要な浸水情報データを提供します。
事務所ホームページの「六角川・松浦川浸水情報提供システム」から、知りたい地点の浸水深、到達時間等を地図や写真と重ね合わせた結果を閲覧することができます。
(右図)



【URL: http://202.61.25.133/pf-viewer/Module_takeo/top.html】

六角川・松浦川浸水情報提供システム

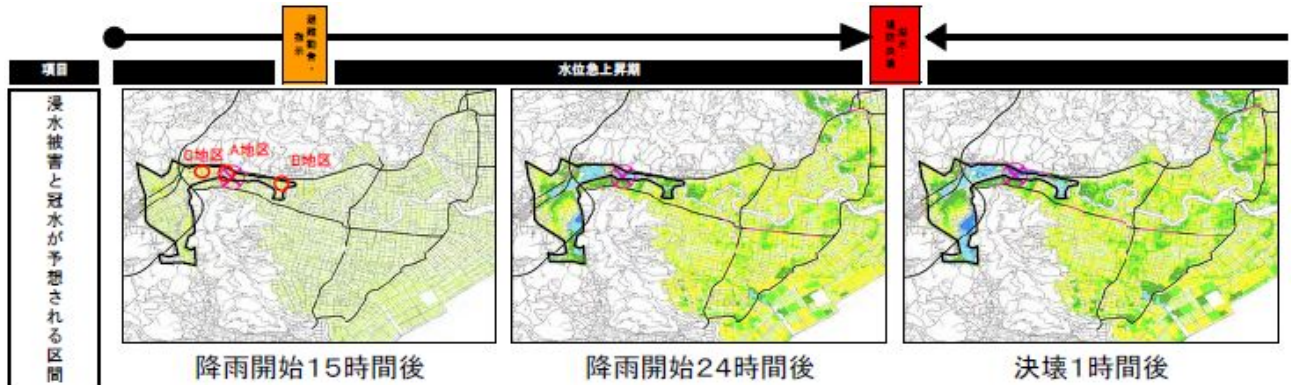
武雄河川事務所の技術的支援②

佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会

佐賀平野における大規模浸水時の被害最小化を目的として、県、市町、民間及び国の各機関から講成される「佐賀平野大規模浸水危機管理検討会」の資料等を事務所ホームページに公表しています。

「佐賀平野大規模浸水危機管理検討会」により策定された、「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」には、嘉瀬川流域、六角川流域、筑後川右岸の洪水による浸水想定と高潮による浸水想定を示すとともに、想定される浸水による被害想定シナリオを時系列に示しています。

【URL: http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/prepare_bousai/daikibo_shinsui/】



佐賀平野大規模浸水危機管理計画 被害想定シナリオ抜粋



土砂災害ハザードの確認（小城市の場合）

小城市では、防災マップや佐賀県土砂災害危険度情報を参考に土砂災害の恐れのある箇所の確認を行いました。【URL: <http://dosha.pref.saga.lg.jp/>】



佐賀県土砂災害危険度情報

2. 被災シナリオの作成

〇起こりうる災害を可視化し、タイムライン作成に係る全てのメンバーが想定災害の様相を共有することで、対応の検討に向けた、意識の統一を図ります。

■STEP1

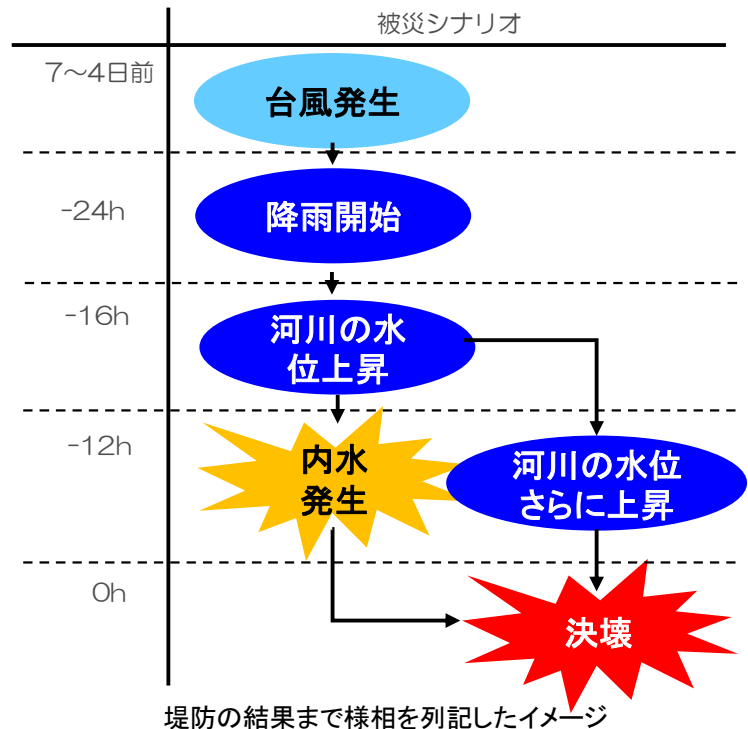
台風の発生から最接近、気象・洪水等の予警報の発令、水位上昇や内水発生、堤防決壊、土砂災害発生、高潮災害発生など、起こりうる災害の様相を時系列に沿って列記します。

■STEP2

堤防の決壊や台風上陸など、防災行動を完了させる基準となる時間を0時(以下、「0h」として設定します。

■STEP3

列記した災害の様相の各々に対し、発生時間を設定します。



堤防の結果まで様相を列記したイメージ

■STEP4

気象情報や水位上昇のタイミングについて確認します。
必要に応じて、気象台や河川管理者に助言を求めます。



武雄河川事務所の助言の様子

STEP5

シナリオ完成後、頭から通しで確認を行います。次のステップで検討する防災行動などを勘案し、必要に応じてシナリオの見直しを行いましょう。

洪水 シナリオ					
【当初】 シナリオ			【見直し後】 シナリオ		
基準時間			基準時間		
-21h	降雨開始	【降雨開始】 ・大雨注意報、洪水注意報発表 ・大雨警報、洪水警報発表	-33h	降雨開始	気象台からの助言で、 大雨注意報、洪水注意報、 大雨警報、洪水警報の表現や タイミングを見直しました。
-12h			1日前		・注意報((警報予告付)大雨、洪水) ・台風に関する佐賀県気象情報
-9h	内水発生	【内水による被害発生】 ・内水発生	-21h		・警報(大雨、洪水)
-5h					【水防団待機水位到達】 ・妙見橋観測所(水位2.3m)
-4h		【水防団待機水位到達】 ・妙見橋観測所(水位1.0m) 【氾濫注意水位到達】 ・妙見橋観測所(水位2.2m)			【大雨(警報基準発生)】 【氾濫注意水位到達】 ・妙見橋観測所(水位3.5m) ・はん濫注意情報(共同) ・記録的短時間大雨情報
-3h			-15h		【避難判断水位到達】 ・妙見橋観測所(水位4.4m) ・はん濫警戒情報(共同) 【内水による被害発生】 ・内水発生
		当初は、内水発生による対応を抽出するため、外水の水位上昇の前に内水発生を置いていたが、抽出後は実情に合わせてタイミングを見直しました。	-14h	内水発生	【氾濫危険水位到達】 ・妙見橋観測所(水位4.8m) ・はん濫危険情報(共同) ・大雨特別警報(浸水害)
-1h		【氾濫危険水位到達】 ・妙見橋観測所(水位4.3m) ・大雨特別警報	-13h		

被災シナリオの見直しイメージ



重要行動を漏れなく記載できました！

台風上陸や気象情報のタイミング、実災害に沿った水位設定等について、佐賀地方気象台と武雄河川事務所が積極的にアドバイスを行いました。これにより、水防団の退避などの重要な行動が埋没することなく、タイムラインを作成することができました。(武雄河川事務所、佐賀地方気象台)

武雄河川事務所の技術的支援

③自治体が実施するタイムライン作成ワークショップへの技術支援

武雄河川事務所では、ご要望に応じてワークショップに参加し、河川防災情報等の説明を致します。また、モデル地区でのワークショップで実際に用いたワークシート様式を提供致します。事務所ホームページからダウンロードできます。
【URL:】

3. 行動項目の洗い出し

- 被災シナリオに基づき、各部署の役割(行動項目)を洗い出します。
- 災害時は、全庁が一丸となった対応が必要です。そのため、災害対策本部要員を中心とした、全庁の主要メンバーが一堂に会して議論を行うことが、タイムラインを有効なリスクコミュニケーションツールにするための重要な過程となります。

■STEP1

災害対策本部を構成する部署ごとに分かれて、被災シナリオに基づき、全員で行動項目(やるべきこと)を書き出します。
地域防災計画や各種マニュアルを参考に、なるべく多くの行動項目を洗い出しましょう。

ワークショップ形式で、互いに意見を出し合いながら実施することで、部署内での認識の共通化をはかりながら進めることができます。



ワークショップのイメージ(第1回小城市職員研修会)

■STEP2

書き出した意見を持ち寄り、グルーピングにより行動項目を整理します。

■STEP3

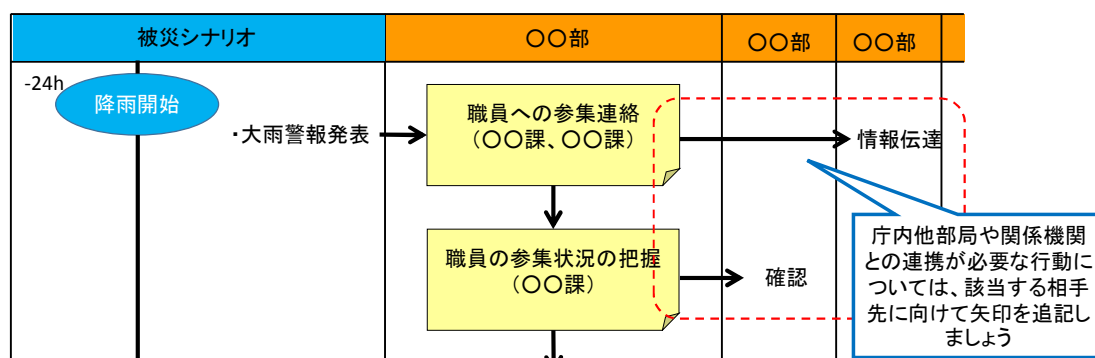
行動が連続するものについては、矢印(→)で手順を明示し、つながりを確認します。



連続性の確認イメージ

■STEP4

他部署や外部機関に関連する行動やきっかけとなる情報があれば、合わせて記載します。



4. 所要時間の算出

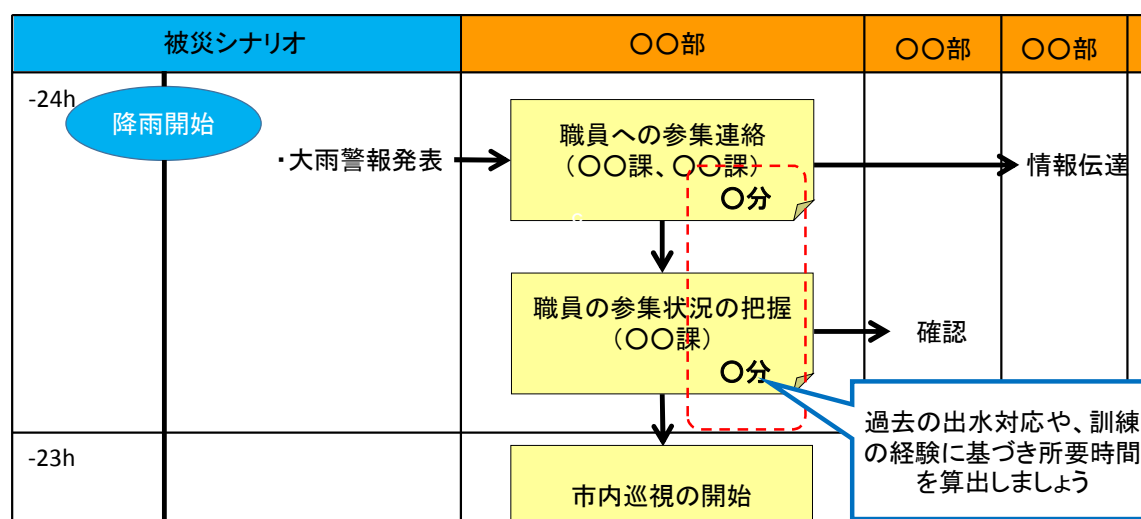
- 行動項目ひとつひとつに、所要時間を設定します。
- 連続した行動は、各行動の時間を積み上げます。これらの所要時間の積み上げから、行動を開始しなければならないタイミングが見えてきます。

■STEP1

過去の災害対応(時系列的に整理した災害対応の記録)や図上訓練シナリオ等を参考に、書き出した行動項目のひとつひとつについて、「所要時間」を設定します。

■STEP2

所要時間は、その行動を実施する時間のほかに、行動に必要な準備時間も考慮して算出します。



所要時間の算出イメージ

※タイムラインが完成した後も、訓練や実践等を通じて過不足がないかを確認し、必要に応じて所要時間等の見直しを行う必要があります。

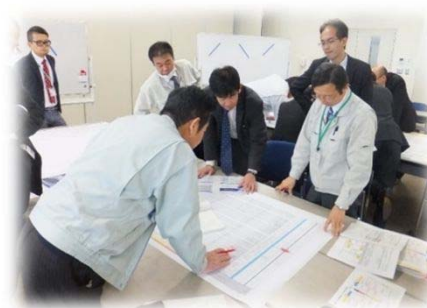


防災に対する「我がこと感」の醸成

○小城市では研修会という形で、管理職全員が参加して自ら行動項目を時系列、体系的に整理していく作業を行いました。

○このことにより、「防災は対岸の火事」、「他人事」ではなく、わが事感を持って意見を抽出することができました。

(小城市 総務課職員)



第1回小城市職員研修会

5. 実施フローの作成

- 異動や新規採用職員など、災害対応に不慣れな職員が、対応手順を容易に理解し、俯瞰的に確認することを目的に、防災関係機関を含む対応について実施フローを作成します。
- 実施フローの集約作業を通じて、行動に関わる部署や防災関係機関、行動のきっかけを確認する機会を持つことができます。

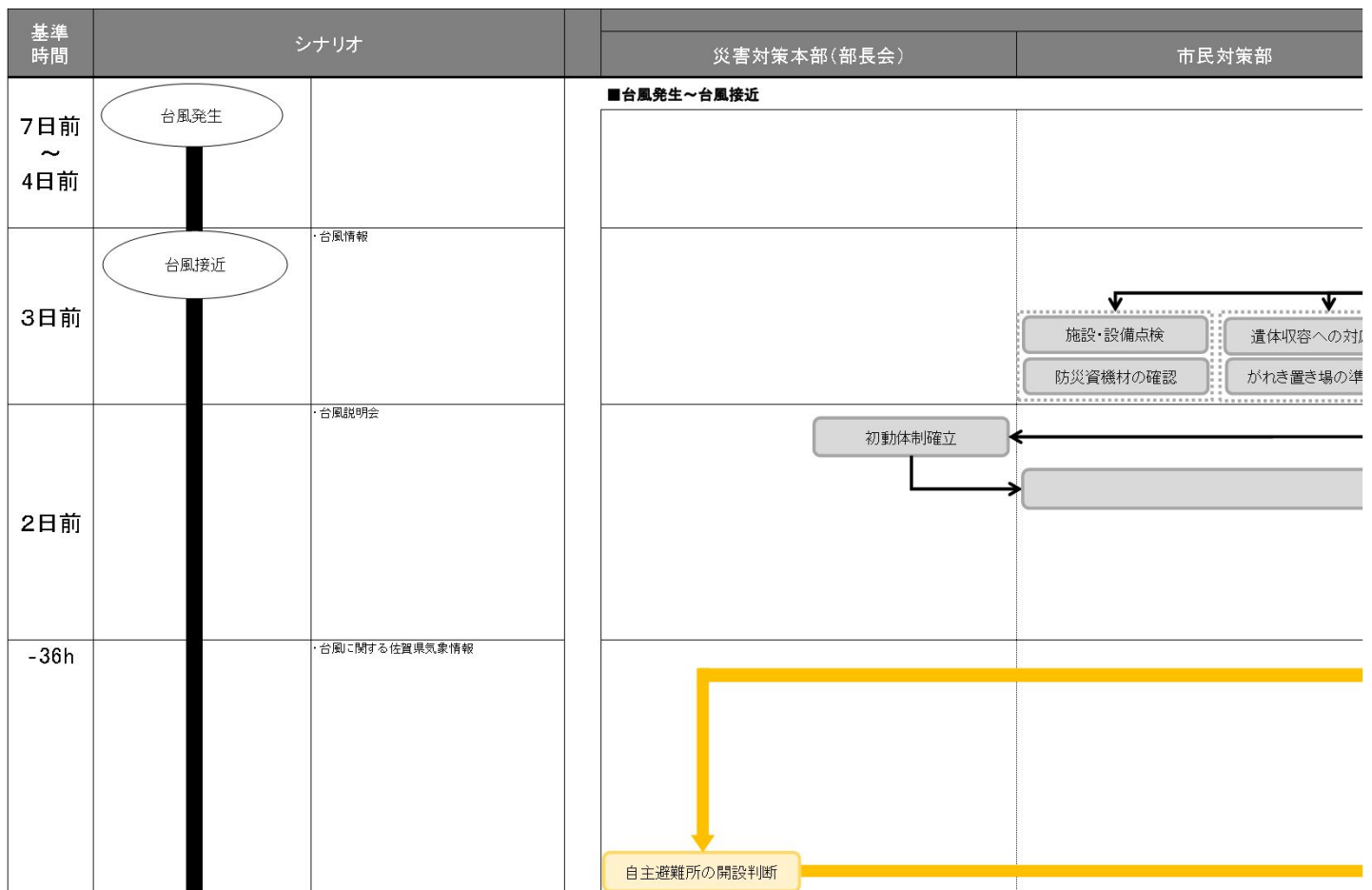
■STEP1

3～4で整理した、「行動項目や連続する行動」を全庁で持ち寄り、1つの実施フローとして集約します。
行動の流れがうまくつながらないときは、行動項目の不足が原因です。行動項目を追加して一連の流れを完成させましょう。

■STEP2

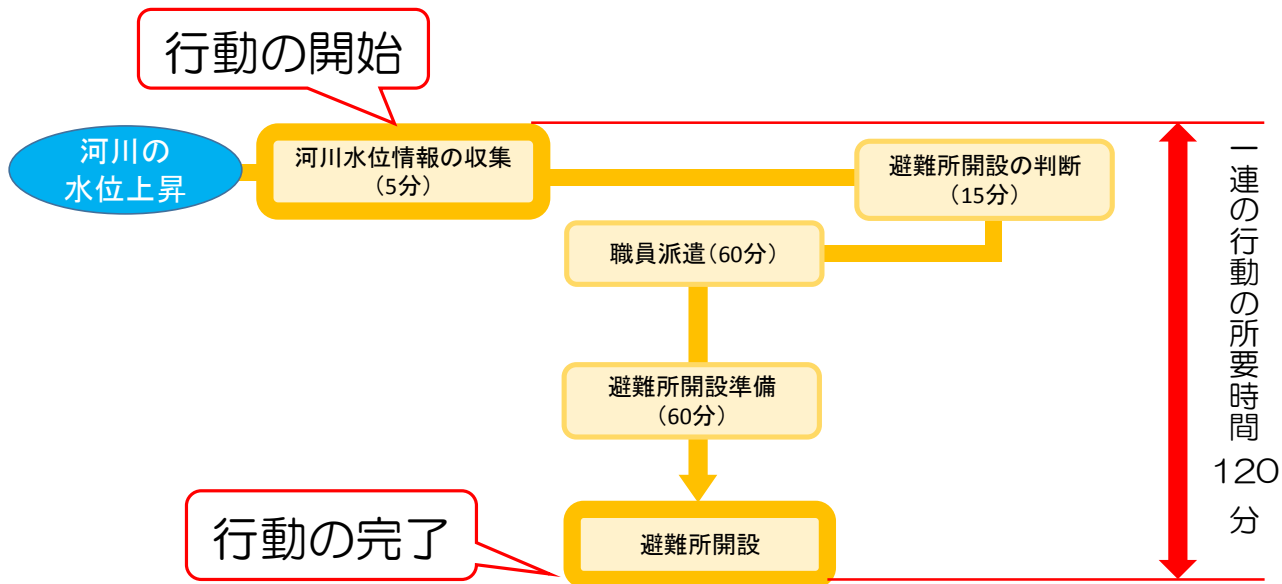
「住民の命を守る(避難)行動」や、「被害を最小限にとどめる(減災)行動」などの特に重要な行動は、色分け等により目立つようにします。

【小城市洪水版タイムライン（フロー）】

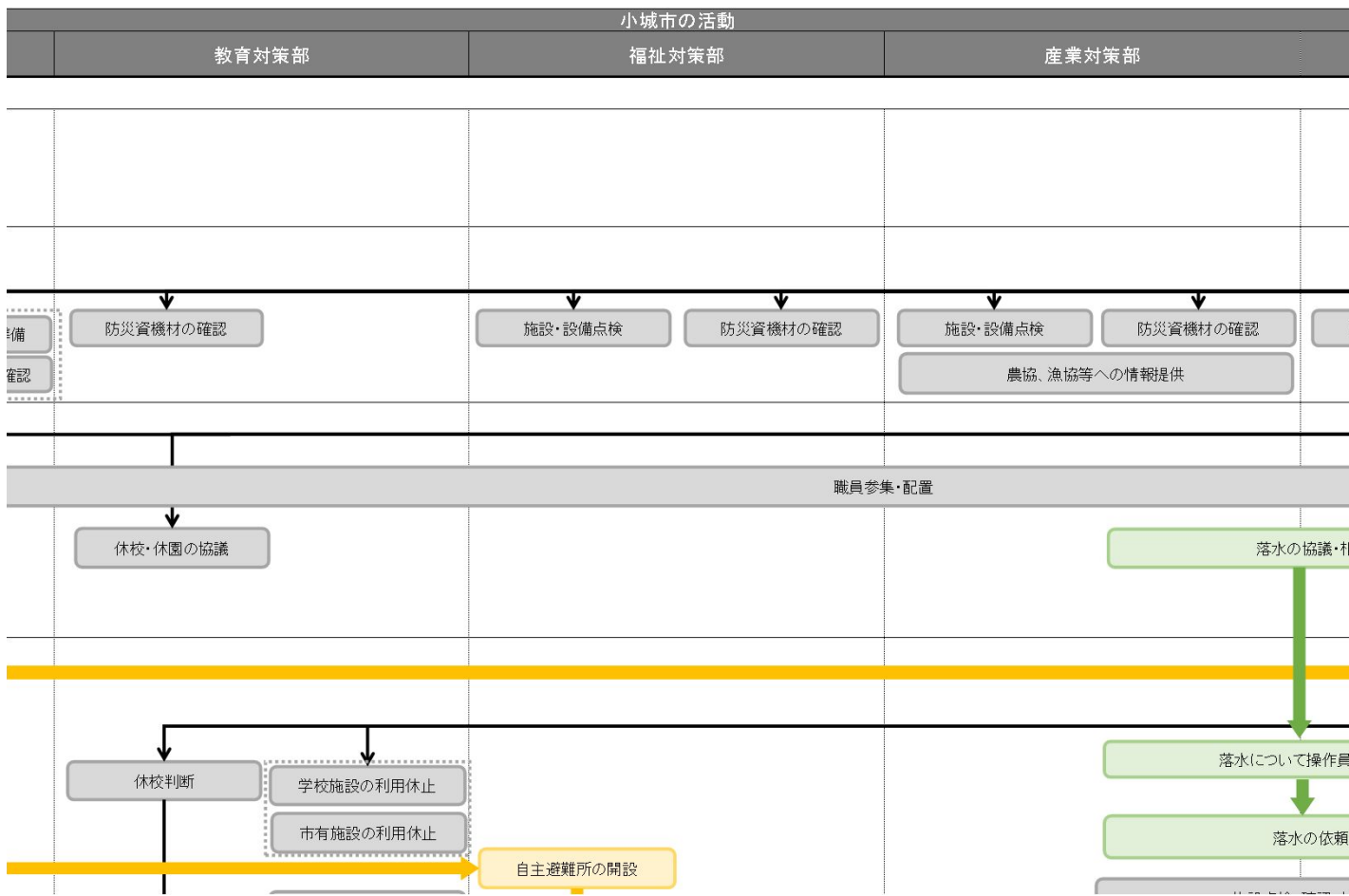


STEP3

連続する行動の所要時間を積み上げると、一連の行動に必要な所要時間が算出できます。この作業により一連の行動が目的の時間で終わることができているか確認します。目的の時間までに一連の行動を終えることができていない場合は、行動開始のタイミングの見直し等を検討します（部署内でタイミングを協議します）。



一連の行動の所要時間確認イメージ



7. 行動のすりあわせ（全庁）

- 全庁的な防災行動計画とするため、各部署の代表者が一堂に会し、全ての行動項目について「いつ」、「何を」、「誰が」行うのかを、ひとつひとつ確認する作業が大切です。
- 他の部署の対応行動を知るとともに、全庁の共通認識を持つための重要な機会となります。

■STEP1

防災担当セクション等が中心になって、行動項目一覧表に示した行動計画をひとつひとつ発表し、他の部署の記載内容と齟齬がないか確認を行います。

■STEP2

部署間で対応やタイミングに違いが認められた場合には、その場で調整を行い、意志統一を図ります。

■STEP3

特に、連続する行動については、「所要時間」と「行動を完了させる時期」を再度確認し、一連の行動を開始するタイミングを適正に設定することを心がけます（全庁的なタイミングの確認）。



行動のすり合わせイメージ（第2回小城市職員研修会）

■STEP4

この結果を受けて、行動項目一覧表と実施フローを修正します。



庁内の横連携を確認する



第2回 小城市職員研修会

○全対策部が集まっての発表会では、250項目あまりの行動を丹念に確認する作業を行いました。

○各対策部からは、自由闊達な意見が多数寄せられ、同じ行動に対する部ごとの認識のズレなどもその場で調整することができました。

○また、積極的な発言の中でも、相手側の立場に立った前向きな意見が見られたことも良かった等の感想が発表会後の意見交換で寄せられました。
（小城市総務課職員）

8. 行動のすりあわせ（関係機関）

- 関係機関に関わる行動項目について、対応の可否、所要時間や実施主体者の照会を行い、地域の連携体制を構築します。
- 作成中のタイムラインをきっかけに、他の関係機関を機軸としたタイムラインを構築することで、地域防災力のスパイラルアップを図ります。

STEP1

地域の防災関係機関が集まる検討会等を活用して、「関係機関の対応の可否」、「実施のタイミングや所要時間」、「実施内容」、「追加項目」等について照会を行います。



関係機関との行動のすりあわせイメージ（六角川流域事前防災行動計画検討会）

STEP2

この結果を「行動項目一覧表」、「実施フロー」に反映します。

9. とりまとめ

- タイムラインは、「実施フロー」と「行動項目一覧表」で構成します。
- 作成したタイムラインは、誰でも手を加えられる計画となるよう、全庁的に共有する仕組みを構築しましょう。



重要なのは「計画」ではなく「過程」

- タイムラインを活きたものとするためには、作成する過程が非常に重要だと感じました。
- 近年大きな洪水がない中で、実際の災害対応を経験している職員が少なくなりつつあります。
- 災害時の行動を一つ一つを考えた場合、首長をはじめ幹部職員に問題意識の共有と理解してもらうためにも、このタイムライン作成の過程は非常に役立ったと感じています。

（小城市総務課職員）

10. 統合版タイムラインの作成

- 複数の災害種別でタイムラインを作成した場合は、同時生起する災害への対応に向けてタイムラインの統合を行います。
- 統合版タイムラインを作成することで、より実災害時に近い災害対応を整理することができます。

STEP1

行動項目ごとに「共通する項目」、「災害別の項目」を区別していきます。

STEP2

統合により行動項目数が増加するので、災害別に行動項目の色分けを行う、ソート機能を追加するなど、タイムラインを活用しやすくなるよう工夫をしましょう。

No.	分類	行動項目	行動細目	行動判断指標	災害種別	開始時刻	終了時刻	所要時間(分)	小城市						
									災害対策本部(部長会)	総務対策部	市民対策部	福祉対策部	産業対策部	建設対策部	教育対策部
91	情報収集	気象情報の共有	気象情報の共有(予警報、雨量、風速、降雨予想、台風進路予測等)		洪、土			随時	○	○	△	△	△	△	△
92		土砂災害に関する情報の共有	土砂災害警戒判定メッシュ情報の確認		土			随時	■	■					
93		交通情報の共有	交通状況に関する情報の共有		洪、土			20		●	△	△	△	△	△○
94		河川水位の確認	河川水位の情報収集(クリーク含む)		洪			随時		■			■	■	

洪水と土砂災害で「共通する項目」、「災害別の項目」を色分け

ソート機能を追加

洪水と土砂災害の統合版タイムラインイメージ

11. 訓練、実災害でのタイムラインの活用

- 作成したタイムラインを日頃から確認し、継続的に見直しを行うことが重要です。
- 訓練や実災害でタイムラインを活用してみましょう。

STEP1

台風の最接近時期を確認し、「0h」となる日時を確認し、タイムラインで想定している基準時間を実時刻に直します。

STEP2

直した時刻を目安に、タイムラインに沿った対応を行います。災害対策本部での会議や、各対策部での災害対応でチェックリストとして活用できます。

STEP3

実施した行動や、当日の判断により実施しなかった行動は、チェック等をいれて対応の漏れがないようにしましょう。また、タイムラインの改善のために、不足している項目やタイミングのずれなどを記載しておきましょう。

基準時間	シナリオ	分類
8:00	-13 氾濫危険水位到達 ・妙見橋観測所(水位4.8m) 大雨特別警報(浸水害)	情報収集・共有
6/28 9:00	-12 決壊 ・氾濫発生情報(共同)	確認
5:00	-5 暴風警報発表	情報共有
6/29 7:00	0 台風最接近	情報共有
19:00	12	対応策急

実時刻の記入例

12. 訓練、実災害への適用と事後検証

○訓練や実災害における記録をもとに災害対応の検証を行います。

○検証結果をタイムラインへ反映することで、よりよい計画へと見直しを行っていきましょう。

■STEP1

検証対象の訓練結果や災害時の記録を時系列で整理し、重要行動※1を中心に行動を分析していきます。

※1 【重要行動(減災・避難)とは】

タイムラインの軸となる、生命を守る為の活動(の内、特に行動が直結するもの)を指す。

	項目	行動の概要	関係先
減災	事前放流	河川、溜池、クリークの落水実施に関する検討及び助言を受け、事前協議を行います。 落水決定後、操作員へ落水を依頼。 また、実施について周知を行います。	- 河川管理者 - 自治体水防団 - 農協、漁協、商工団体 - 地区操作員等
避難	避難勧告	水位情報やホットラインを確認後、庁内で協議・判断の上発令します。	河川管理者

■STEP2

行動の分析に基づき、事後検証ワークショップを開催し、タイムラインの課題と解決策を抽出しましょう。



AAR (After Action Review) 手法 (小城市の場合)

○小城市では、事後検証の手法として米国の災害事後検証制度を参考にしたAARを試行しました。
○AAR手法は、当事者による「この判断が遅かった」「この作業に時間がかかった」という”反省”で終わらせるだけではなく、第三者が以下の視点で問いかけを行うことで、根本的な原因や改善策などを抽出するものです。

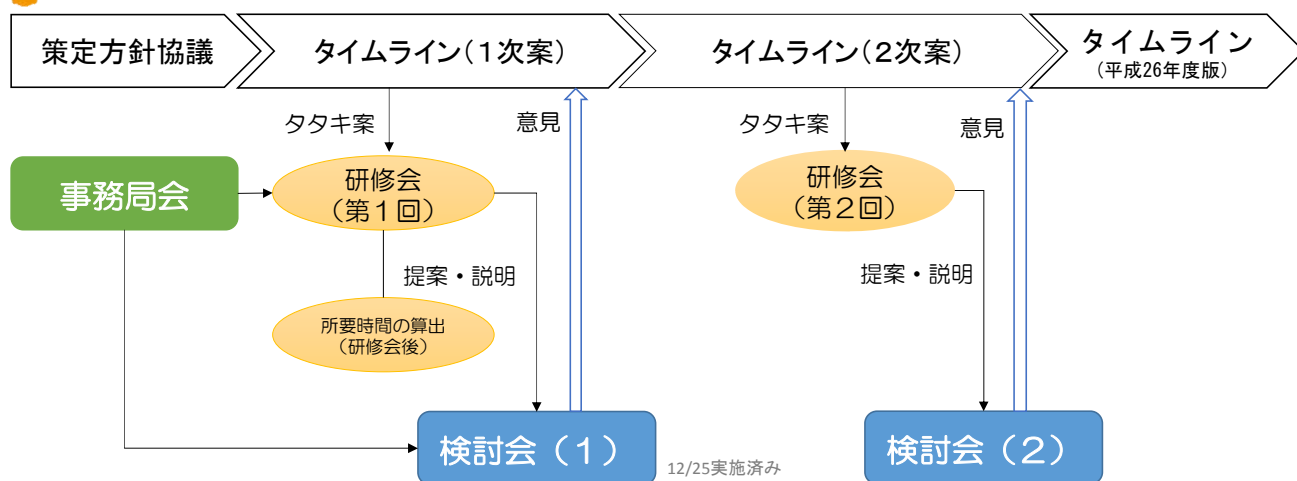
■AARによる事後検証を行う上での確認事項

- ・事象の認知に関して : 何が見えたのか
- ・行動に関して : その結果どのように行動したのか
- ・判断に関して : どの情報を基にどう判断したか
- ・結果に関して : 何が起こったのか
- ・反省に関して : 今後どうすれば良いと思うか





【参考】小城市タイムライン作成にあたっての体制



区分	構成メンバー	各会等の目的
事務局会	・小城市(総務課) ・武雄河川事務所	・各会の位置づけを確認し、タイムライン作成の進め方を決定する。 ・検討条件(被災シナリオ)を設定する。 ・本年度成果(タイムラインのアウトプットイメージ)を決定し共有する。
研修会(全2回)	・小城市(全部署の管理職等) ・武雄河川事務所 ・佐賀地方気象台	・小城市の避難及び減災を目途として、関係機関との連携を踏まえたタイムラインを作成する。 ・対応項目の整理、対応実現のための必要事項を整理する。
六角川流域事前防災行動計画(タイムライン)検討会(全2回)	・学識経験者 ・自治体(小城市・多久市・武雄市・白石町・江北町・大町町) ・佐賀県 ・佐賀県警察署 ・NHK佐賀放送局 ・(株)ケーブルワン ・(株)多久ケーブルメディア ・九州防災エキスパート会 ・佐賀地方気象台 ・武雄河川事務所	・小城市の被災を例として作成したタイムラインについて、対応項目の過不足等や関係機関との連携に関する助言を行う。 ・他自治体への展開と、その他災害への適用を見据えた留意事項を整理する。



洪水の危険が迫ったとき、住民のみなさんが安全・安心して避難が行えるように、「どんな情報をきっかけに避難をしなければいけないか」、「自治会としてどのような行動をとればよいか」など“住民のみなさんが取るべき行動と順番”を明確にした住民タイムライン(防災行動計画)を樋口地区・深町地区で作成しました。

住民タイムラインの成果



- ① 災害発生までに「自分がすべきこと」、「皆（自治会）で協力してすべきこと」を確認・共有
- ② 災害が発生する前に避難を完了するためにかかる時間や、行動に移す「きっかけ」を確認
- ③ 住民タイムラインを、市のタイムラインに反映することで、確実な防災行動を実現

水位・気象情報等	小城市	自治会	住民
水位が上昇 氾濫注意水位到達 記録的短時間大雨情報 氾濫危険水位到達	■避難準備情報の発令 ■避難勧告・指示の発令	□避難準備の声かけ □避難誘導	□非常持ち出し品の準備 □近所への声かけ □避難

自治会や個人でなすべきことは？
 避難にかかる時間はどれくらい？
 決壊

災害情報の発信から 避難までの行動を整理！

ワークショップの実施

樋口地区・深町地区版住民タイムラインは、各自治会の水防班長が集まり、ワークショップ(計2回)で、自治会と住民が「取るべき行動」、その行動を実施するにあたり「必要な時間」の意見を出し合って作成しました。



自治体向けタイムライン作成手引き

- 自治体向けタイムライン作成手引きを提供します
【URL:】
- 六角川・松浦川浸水情報提供システムを公開します
【URL:http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/prepare_bousai/simulation.htm】
- タイムライン作成のためのワークシート集を提供します
【URL:】

お問い合わせはこちら

国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所
災害情報普及支援室



〒843-0023 佐賀県武雄市武雄町大字昭和745
TEL (0954) 23-5151 (代表)
FAX (0954) 23-5191
【URL: <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>】
E-mail: takeo@qsr.milt.go.jp

[初版] 平成27年3月

[第2版] 平成28年3月